令和6年度小松市立木場小学校　学校評価　1（中間）

めざす児童生徒像

よく考え工夫する子（思索）【主体的に学ぶ力　学びを生かす力　表現する力】
たくましい心と体の子（剛健）【挑戦する意欲　最後までやり抜く力　健康を管理する力】
思いやりの心で協力し合う子（誠実）【対話する力　協働する力　自他の良さを認める力】

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

| | 目標 | 項目 | 目標指標 | 評価達成度アンケート内容・調査項目 | | 数値・アンケート結果（%） 教員 | 児童生徒 | 保護者 | ※差 | 達成状況の分析 | 改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校重点項目（学校で設定） | 組織的な学校運営 | 木場の校風づくり | 各項目90%以上の達成率にする。 | ① | 児童は自分を高めようと意欲を持って粘り強く努力している。 | 90.9% | 84.6% | 75.8% | 15.2% | 昨年度末と比較すると、①②ともに児童の肯定的回答が減少している。保護者の数値は大きな変化が見られない。教員と児童・保護者との差が依然として大きい。教員の見取りや評価が児童の自己肯定感につながっていない。 | 生徒指導の取組に学校のキーワード（「粘り強く」「思いやり」）として毎月のふりかえりに取り組んでいく。 |
| | | | | ② | 児童は周囲に対して、思いやりの心で接し、互いの良さを認め合っている。 | 100.0% | 80.0% | 84.8% | 20.0% | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | 集計 | | | | | | | |

| | 目標 | 項目 | 目標指標 | 評価達成度アンケート内容・調査項目 | | | | | | 達成状況の分析 | 改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石川県共通重点項目 | 働き方や業務の改善 | | 各項目90%以上の達成率にする。 | ① | 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。 | 72.7% | | | | 4月から6月の超過勤務時間の平均は約43時間。80時間を超えた職員も0となっている。肯定的回答が昨年度末の50%から増加している。 | 時間外勤務時間の各数値上表れない負担感については、業務のDX化や支援員、スクールサポートスタッフなどを活用して軽減するよう努める。 |
| | | | | ② | 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。 | 72.7% | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

| | 目標 | 項目 | 目標指標 | 評価達成度アンケート内容・調査項目 | | 数値・アンケート結果（%） 教員 | 児童生徒 | 保護者 | ※差 | 達成状況の分析 | 改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小松市共通重点項目 | 指導力の向上 | 学校研究 | **①の達成率を中間95%以上、年度末100%にする。** | ① | 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。 | 100.0% | | | | ①の達成率は１００％となり、目標数値を達成している。 | 2学期以降も共通理解・共通実践することを意識して、取組を進めていく。夏季休業中に、1学期の取組を振り返った上で教職員で共有する。さらに、研究全体会での系統表の作成や、部会で単元構想シート・指導案の作成を行い、2学期の取り組みに生かす。 |
| | | | | ② | 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。 | 100.0% | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | 集計 | | | | | | | |
| | | 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 | ①②⑤の項目での肯定的な回答が、中間８５％以上、年度末９０％以上にする。 | ① | 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 | 90.9% | 87.5% | | 3.4% | ①②⑤の項目で、肯定的な回答が教員は８５％以上となっている。児童は①②が８５％を上回っているが、⑤については下回っている。また、⑤については、教員と児童の差が18.7%と、大きく差が見られる。教師は視点を持たせた振り返りを意識しているが、自分の学びや達成感を感じている児童は少ない。 | ・①②については、一人学習や既習を生かすことで、１人１人が自分の考えを持って話し合いに臨むことができた。今後は一人学習の在り方や取り組み方についても明確にしていく。２学期のデモンストレーションでは、ペアやグループでの話し合いのポイントを全校で共有する予定である。具体的な目指す姿を共有し、取組を進めていく。<br>・⑤については、児童が学びを実感できるようなゴールを単元・教科横断的に他教科や学習発表の場などに意図的に設定していく。<br>・1時間の授業の中では、児童が変容を感じられるような活動を意図的に取り入れる。 |
| | | | | ② | 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。 | 90.9% | 89.1% | | 1.8% | | |
| | | | | ③ | 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している。 | 81.8% | 79.7% | | 2.1% | | |
| | | | | ④ | 児童生徒は、話し合う活動では，話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。 | 81.8% | 89.1% | | 7.2% | | |
| | | | | ⑤ | 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり，学びに対する達成感を得られたりしている。 | 100.0% | 81.3% | | 18.8% | | |
| | | | | ⑥ | 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。 | 100.0% | 90.6% | | 9.4% | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | 集計 | | | | | | | |
| | 学力の向上 | カリキュラム・マネジメント | ②③の項目で、肯定的な回答をした教員が９０％以上にする。 | ① | 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。 | 100.0% | | | | ②③の項目で、肯定的回答が90%以上になっており、目標値を達成している。 | ②について、主任には学校力向上ロードマップを月ごとにチェックしてもらいCAを確実にする。また、パワーアップシートを活用し、担任に声掛けをしていく。<br>③については、1学期基本的な事項で共通理解を図って取り組んできた。全職員での取組が基礎基本の定着につながっていることを、検定や学力テストの結果分析からも見て取れるので、周知し、意識づけをするとともに、夏休みに研修を通して各学年での具体的な取組を明確にすることで、実践につなげていきた。 |
| | | | | ② | 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している。 | 90.9% | | | | | |
| | | | | ③ | 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。 | 90.9% | | | | | |
| | | | | ④ | 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携） | 100.0% | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | 集計 | | | | | | | |
| | | 家庭学習 | ①児童の「家で計画を立てて勉強している」を80%以上にする。 | ① | 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。 | 100.0% | 75.0% | | 25.0% | ①について、目標の80%より-5ポイントだった。家庭学習強化週間の後でとったアンケート「学習の計画を立てて勉強できた」という項目では、92%肯定的な回答があった。 | 家庭学習強化週間では意識して取り組むことができている。児童の振り返りにも「続けていきたい」という言葉がたくさん見られていることから、習慣となるようにお便りや声掛けを続けていきたい。 |
| | | | | ② | 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。 | 77.8% | 74.4% | | 3.4% | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | 集計 | | | | | | | |

# 令和６年度小松市立木場小学校　学校評価２

| | 目標・具体的取り組み | 取組の状況（中間・８月提出） | 取組の成果と課題（年度末・３月提出） |
|---|---|---|---|
| 生徒指導・児童会 | 児童の主体性を育むための積極的な生徒指導<br>・教職員の日常的な児童の情報交換はもちろん、年２回の木場っ子アンケートを基に、担任と児童が面談する場を設定し、問題行動等の早期発見・未然防止を図り、より深い児童理解を行う。<br>・児童会の活動にねらいを持たせた上で、児童のアイデアを積極的に取り入れるように工夫することで、児童の主体性や自主性をはぐくむ。 | ・１回目の木場っ子アンケートをもとに、全児童を対象とした担任との面談を行った。また、それらのアンケートの結果を全教職員に周知するとともに、木場っ子アンケート後の児童や保護者の対応等も含め、情報を共有できている。<br>・児童の運営委員会が、「みんなで遊ぼう運動」と題し、定期的に全校児童でドッジボールや鬼ごっこなどの運動に親しみながら交流を図るなど、代表委員会や各委員会で児童主体の取組を行うことができた。しかし、児童が「主体性や自主性をもった取組ができているか」のアンケート結果では約７割の児童しか肯定的な回答が少なかったため、６年生だけでなく、４・５年生のアイデアも取り入れつつ児童が自分達で企画し達成感を持てるような活動を児童と共に進めていく。 | |
| 安全指導 | 命を守る取組を推進し、児童の安全への意識を高める<br>・計画的に避難訓練を行い、非常事態が起こった際の避難の仕方を児童と職員で共有する。<br>・集団登下校訓練、交通安全教室などを行い、児童の交通ルールを守ろうとする意識を高める。<br>・定期的に職員が校舎の安全点検を行うことで、事故の未然防止を防ぐ。 | ・避難訓練や集団下校訓練、交通安全教室を計画的に実施し、児童と職員で命を守るために必要な避難の仕方を共有することができた。火災の避難訓練では、避難時の状況を具体的に想定し、非常口を使った避難を行った。また、警察や消防、交通推進隊等、外部人材を生かすことで、より実践的な訓練ができた。これからも実践的な訓練が行われるよう計画的に進める。<br>・集団登校訓練、交通安全教室だけでなく、今後も折々で指導し、交通ルールを守ろうとする意識の継続と向上を図る。<br>・定期的に職員が校舎の安全点検を行い、事故の未然防止に努めている。また、災害等の際にも各点検場所の確認を行っている。<br>・2学期にも、避難訓練を行う予定である。引き続き、計画的で実践的な訓練を行っているよう努める。 | |
| 特別支援教育・教育相談 | 発達課題を持つ児童一人ひとりに応じた教育支援体制の充実<br>・様々な発達の課題をかかえる児童について、全教職員で実態を把握し情報共有し、有効な支援体制を構築する。そのために各担任が対象児童の個別の支援シートを作成し、定期的に特別支援校内委員会を開催する。<br>・特別支援校内委員会や児童理解の会などで児童の日ごろの様子について気になる点を共有し支援にあたる。<br>・必要に応じて専門相談員を招聘して外部機関との連携を図り、児童の特性の理解や効果的な支援方法について助言を受ける。 | ・4月初めの特別支援校内委員会では、対象児童の個別の支援シートをもとに児童の持つ発達課題について情報共有するとともに、適切な支援について確認できた。<br>・学習の理解・定着が困難であると思われる児童について、特別支援学校の専門相談員を招聘し、児童の発達特性を詳しく分析するとともに、連携して有効な支援方法を検討していく。 | |
| 道徳教育 | 道徳教育を中心とした教育活動全般の充実を図る<br>・定期的に道徳の授業づくり等の情報を発信・共有することで、教員の道徳教育の充実を図る。<br>・重点項目の取組を他教科や活動と関連づけられるようカリキュラムマップを意識した道徳教育の推進をする。<br>・家庭、地域と連携した道徳を推進していくために年に１回授業参観で道徳の授業を公開する。 | ・１学期中に３回、道徳通信を職員向けに発行した。通信を通して、授業づくりのポイントや評価の仕方を全教職員に共有することができた。また、親子の手紙と関連させた授業の展開を紹介することで、外部の取組を生かした道徳の授業づくりについて伝えることができた。<br>・カリキュラムマップを活用することで、重点項目について他教科の学習と関連付け、教科横断的な道徳教育を行うことができている。<br>・全学年、学級において、授業参観に道徳の授業を行い、学校で行われている道徳教育を家庭や地域に公開することができた。 | |
| 情報教育 | ICT端末の効果的な活用を図る<br>・ICT端末の効果的な活用を模索し、職員間での情報の共有を図るための研修を充実させる。<br>・児童がICT端末を日常的に使えるような環境整備を行い、学年の実態に応じた情報活用スキル習得を図る。<br>・情報モラル教育の職員研修を充実させ、児童への情報モラルの習熟を図る。 | ・今年度から時期にあった情報を定期的に発信するために、週に1回時間を決めて、GIGA研修を行っている。今年度から導入されたデジタル教科書の使い方やTeamsを使ったオンライン会議の方法などの情報を職員間で共有することができた。<br>・児童がよく使用するデジタル教科書やウェブサイトの入り口を一つに統合することで、より児童が学習用端末を抵抗なくスムーズに使うことが学校全体でできるようになった。<br>・GIGA研修を通して、児童の発達段階に応じた情報モラル教育のデジタルコンテンツを教員同士で共有することができた。児童の確かな情報モラル習得を目指して、担任がデジタルコンテンツを日常的に扱うように、声かけを行っていく。 | |
| 読書教育 | 図書の充実を図り、児童の読書意欲を高める<br>・年間の計画をもとに図書室を利用したり、教科にあった本や「本のとびら」の貸し出しを行ったりすることで、児童の読書の幅を広げる。<br>・図書委員が主体となり、計画的にイベントを行うことで、図書室利用の促進を図ったりさまざまな本のよさを広めたりする。<br>・図書ボランティアと連携し、より豊かな読書経験の機会を与える。 | ・「本のとびら」の内容が新しくなり、興味を持って読む児童が増えている。教科に関する図書を各教室に設置することで、年間計画に沿った図書の利用を進めることができた。今後も継続していく。<br>・「図書ビンゴ」の内容に、さまざまな分類の本や「本のとびら」を入れることで、読書の幅を広げられるようにした。イベント期間中にはいつも以上に多くの児童が図書室を利用し、全校児童の半数がビンゴカードの本を読破していた。２学期以降も児童主体となる取組を委員会から発信していく。<br>・図書ボランティアの読み聞かせを通して、読み聞かせを楽しむことができた。さらに、紹介された本から読書の幅を広げるようになった児童もおり、よい機会となっている。 | |
| 保健健康教育 | 自己の健康と安全（命）を管理する能力の育成<br>・睡眠と食育について各学年１回ずつ以上学習し、生活チェックカードの取り組みにつなげられるようにする。<br>・性に関する指導を各学年１回以上行う。また、学校保健委員会でも取り上げ、家庭と学校の連携を高めていく。 | ・１，３年で食育、２，４年で睡眠学習を行うことができた。２学期以降も計画的に睡眠学習と食育を進める。<br>・生活チェックカードの実施時期が学期末だったため、学習したことは今回の結果には反映されていない。<br>・性に関する指導は各学年、学習計画に沿って実施済み、実施予定である。また、学校保健委員会に向けてアンケートを行い、集計分析を行い、学校公開日に発表する。 | |
| 体力向上 | 年間を通した体力向上の取組の推進<br>・「木場っ子トレーニング」として短時間できる体幹トレーニングを継続的に行い、児童の姿勢維持や体力、集中力の向上を図る。<br>・各学期に「スポチャレいしかわ」の強化週間を設け、意欲を高めるとともに、運動習慣の定着と体力の向上を図る。<br>・体力テストや持久走大会へ向けての練習等において、全校共通の学習カードを活用して取り組み状況を明確にし、成果が見える形にする。 | ・健康委員会による木場っ子トレーニングのお手本動画を見ながら、全校で木場っ子トレーニングを継続的に行った。また、姿勢に関する掲示を行った。児童アンケートでは86.2%の児童が、目的をもって取り組んだと回答している。5月に行った体幹力チェックでは、達成率が56%であった。前年度の5月（42%）に比べて徐々に高まっているので、取組を継続し、体幹力の向上を図る。<br>・1学期では、6月にスポチャレいしかわのシャトルボールの強化週間を設け、取組の推進を行った。取組結果記録の掲示を行い、記録の更新や取組回数が分かるようにすることで、児童の意欲の向上を図った。2学期では種目を変えて強化週間を設定し、取組の継続を行う。<br>・体力テストに向けて、前年度の個々の記録や、県の平均などを記載した学習カードを用意した。前年度の自分や県の同学年の平均の記録と比較することで、自己の成長を実感させ意欲の向上を図った。2学期に行う持久走大会でも、学習カードを活用し、児童の意欲向上につなげる。 | |
| 地域・家庭連携 | 地域・家庭に開かれた学校づくり<br>・地域の環境や人材を活用した学習活動の実践を推進し、深まりや広がりのある学校教育活動を実践する。<br>・地域・家庭と連携し、学校教育（学習・安全・健康）に協力体制を構築する。特に家庭とは児童の学習活動への理解と協力が深まるような取組を工夫する。<br>・HP、通信などで地域・家庭に教育活動の情報発信をていねいに行う。<br>・全職員でHPの更新を分担して行い、更新回数を増やすことで学校の取組を積極的に発信する。 | ・星の城プロジェクト、木場潟公園、野鳥に関する学芸員などの各種外部講師を活用し、木場小の地域性を生かした取組を計画的に進めてられている。<br>1・2年…町探検、3年…安全マップ作り、4年…ビオトープ・モリアオガエル観察、5・6年…野鳥観察、全学年…東園地体験プログラム<br>と、教科や教科横断的に学習に結びつけることができている。<br>・HPは、全職員で多角的な視点を持ち、分担して進めている。情報を発信する意味を共有して各職員学期に1回の取組を推進する。<br>・保護者アンケート結果でも昨年度3割弱ほどあった否定的回答が1割未満となっている。教育活動の情報発信を継続して取り組む。 | |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価 | （中間評価に対して　8月学校関係者評価委員会より）<br>・子どもは元気で健康で、学習に前向きに頑張ってくれていればよい。順調な様子がうかがえる。<br>・熊対応などでの集団登校時などに挨拶を中心に児童の様子が「きちっとしている」（礼儀正しい）。校長の毎朝のあいさつによって児童が安心してあいさつができている。反面、町内での付き合いの希薄化のため、町民と児童とのあいさつがない。<br>・自分たちが子どものころのような昔と違い、子どもが自分達で物事を決めて中心に進めているのが良い。<br>・ICTの活用については、ゲームで日ごろ楽しく触れているが、将来必要な道具として使いたくない道具とならないように育ててほしい。また、中高ではスマホでのいじめなどのトラブルが多くなる現状もあるため、それに対する指導も心がけてほしい。<br>・アンケートに「まったくあてはまらない」と、回答している少数の児童が、常態化するのは心配なので、よく観てあげてほしい。 |